

自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日

2022年度 事業計画書

公益財団法人ハーモニィセンター

目次

はじめに.....	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営.....	2
1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC	
1-2 カウンセラーの募集とトレーニング	
1-3 移動動物教室	
1-4 蓼科ポニー牧場	
1-5 相馬ポニー牧場	
1-6 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)	
1-7 新拠点整備に向けた取り組み	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理.....	4
2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)	
2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)	
2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)	
2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の3年目)	
2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及.....	7
4. 川べり環境の整備及び活用.....	7
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進.....	7
6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及.....	8
7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信.....	8
7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」	
7-2 WEB サイト・SNS の運用	
7-3 パンフレット・チラシの活用	
8. 各種セミナー等.....	8
9. 法人運営にかかる業務.....	9
9-1 職員等の研修	
9-2 会議等の実施	
9-3 運営体制強化に向けた取り組み	
9-4 他団体との連携等	
9-5 日常法人事務	

はじめに

ハーモニセンターは1961年の法人設立から60年が過ぎました。この年度は、次の10年に向けて着実に歩みを進めると同時に、社会状況に呼応した子供の成長に資する事業を広く展開できるよう、変化のための速歩(Trot)が求められる1年となります。

新型コロナウイルス感染症の影響は引き続き残ることが予想され、キャンプや動物広場等の運営にもさまざまな対応が求められる状況が続きます。しかし、体験活動の機会が大きく制限される日々が続いたため、より旺盛な需要が生じています。また同時に、コロナ禍とともに顕在化した子供を巡るさまざまな問題の緩和には、私たちのプログラムが役立つという確信も強まっています。工夫を重ね、一時的に縮小した事業規模を回復させ、少しでも多くの機会を提供できるよう努めます。

しかし、その努力は既存の事業に留まるものではありません。新たな事業の展開に向けた取り組みを積極的に進めたいと考えています。新たな事業とは、たとえば不登校の子供やDV被害や貧困など困難に直面する子供に向けた事業、より身近な活動環境を提供するための東京50km圏内拠点の整備、動物広場等施設の新たな受託といったことです。これらは単年度で完成するものではありませんが、社会課題の緩和・解消、そしてハーモニセンターの経営課題の解決といった観点から必要性が高いものであり、取り組みは欠かせないと考えています。

もちろん、現状でこれらの取り組みを行えるだけの資源がすべて整っているわけではありません。新たな発想を得るための学びを深める研修の充実、特定領域の専門性と経験のある他団体との協働、ファンディングといった取り組みは不可欠となります。研修については、法人内研修体系の見直し・充実を図るとともに、外部講師による研修、海外を含む研究大会等への参加も積極的に進めます。他団体との協働については、確実な効果を得るために大切な取り組みであると考えています。子供にかかわる社会課題の緩和・解消を志向する場合、ハーモニセンターが提供するプログラムが確実に役立つことは自信を持って言えます。しかし、支援の形態は複合的・多角的でなければならず、すべてをハーモニセンターでまかなうことはできません。協働を通じて確実な成果を上げることを目指します。

こうした取り組みは、これからのハーモニセンターの姿をかたちづくるものですが、その過程では現在の施設や事業のあり方を見直し、整理するということが欠かせません。それぞれの場所・事業には固有の歴史、意義があり、ハーモニセンターの大切な一部です。しかし、限られた資源をこれからの取り組みに有効に活用するための取捨選択は避けられず、十分な議論、検討を重ねた上で、判断を行いたいと考えています。

たくさんのチャレンジがある速歩(Trot)の1年、乗り切るためにはたくさんのサポートが必要です。さいわい、ハーモニセンターには60年を超える歴史とともに、たくさんの人とのつながりがあります。さまざまな知恵とアイデア、汗を流す時間を割くこと、そして時には資金協力をお願いすることもあるでしょう。ハーモニセンターがこれまでに創り出してきた価値を再認識、再構築し、新しい価値を提供できるよう、ちょっと急ぎながら、しかし着実に歩みを進める1年とします。

1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC

ハーモニセンターでは1972年に実施した第1回十勝ポニーキャンプに始まり、約50年間にわたり、夏休み等の長期休みを中心に子供達(5歳～中学校3年生)を対象としたキャンプを実施している。スキー・登山・スケート・野外炊事等のキャンプも含め、下表のとおりキャンプを実施する。また、年齢制限を設けず気軽に参加してもらえるように HAC(ハーモニー・アクティブ・チャレンジ)も積極的に実施する。

なお、この年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残ることは予想されるため、十分な感染対策を取るほか、やむを得ずキャンプ中止となった場合は、日帰りやオンラインなどの代替プログラムを実施し、体験を止めないよう努める。合わせて、「ポスト・コロナ」「ウィズ・コロナ」を見据えた、キャンプのあり方を検討する。

ポニーキャンプ	19コース GW(3)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(1)
ファミリーキャンプ	8コース
野外体験キャンプ	7コース 登山(1)・野外(1)・スキー(3)・スケート(2)・野外(1)
HAC/日帰り	適宜

主催キャンプ・HAC(代々木事業所担当分)

1-2 カウンセラーの募集とトレーニング

カウンセラー(青年ボランティア)は、子供達と対等な目線で向き合い、寄り添う存在として、ハーモニセンターのキャンプをはじめとする活動に不可欠な存在である。この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会が制限されており、新たなカウンセラーの確保と活動機会の創出が大きな課題となっている。積極的な募集に努めるほか、集合のカウンセラー研修に加え、多様なオンライン研修も行い、カウンセラーの活動意欲の向上につなげたい。

カウンセラー募集	オンライン合同説明会の実施(5～6月に5回程度) ボランティア募集サイト activo(アクティボ)での募集 大学・専門学校での説明会の実施・SNS を通じた告知
カウンセラー研修	蓼科宿泊研修(6月・11月・2月/計4回)・スキー研修(12月/1回) その他、乗馬や野外スキルを身に付けるための日帰り研修を複数実施するとともに、オンライン研修を適宜実施する。

1-3 移動動物教室

移動動物教室は、ポニー乗馬やモルモット・やぎ・羊・うさぎ等の動物とのふれあいを学校・幼稚園・地域のイベント等に届ける事業である。この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、「ポスト・コロナ」「ウィズ・コロナ」を見据えて、積極的な情報発信を行うことで、回復に努める。

また、実際に「乗る」「触れる」だけでなく、ポニーや在来馬、小動物について学ぶことのできるプログラムの開発も進め、対面及びオンラインによる学校授業等への導入等も図る。

全国乗馬倶楽部振興協会の助成を受けて実施する移動動物教室については、新潟県南魚沼市・長野県茅野市・神奈川県相模原市を中心に展開する。

1-4 蓼科ポニー牧場

自主事業のポニーキャンプの他、年間を通して乗馬レッスン、障害者乗馬レッスン、引馬を実施するほか、地元の子供達を中心とする「蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)」、不登校児のための「ひだまりファーム」、ハーモニセンターの子供達のための乗馬大会「ポニーライダーズカップ」、地域還元事業「牧場フェスティバル」などを実施。あわせて、法人で使用するポニーの育成、調教を行うほか、移動乗馬教室、スタッフ・カウンセラー研修等の活動拠点としての機能を果たすほか、牧場ようちえん「ぽっこ」へ活動場所を提供し、支援する。

また、助成金を活用した宿泊棟の建て替え計画を複数年にわたって進める。建て替えに合わせ、蓼科ポニー牧場を「ポニーキャンプの場」「ポニーの供給基地」「実験的事業の場」として明確に位置づけ、全体的なリニューアル計画を作成する。このとき、60年の歴史に根ざした多様なステークホルダーの意見を広く聞き、協力を得ながら、ハーモニセンターのフラッグシップとしての牧場づくりを目指す。

主な事業	ポニーキャンプ 19コース GW(3)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(1) ファミリーキャンプ 8コース 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC) 2回/月(8月を除く) ひだまりファーム 毎週火曜日(年40回・長期休暇期間除く) ポニーライダーズカップ 10月15日(土)-16日(日)
------	---

1-5 相馬ポニー牧場

2021年度末をもって除染土置き場としての貸出が終了したため、敷地の一部賃借を含め有効活用之道を探るとともに、その内容に合わせて老朽化した一部施設の解体も順次進める。

1-6 小貝川ポニー牧場(小貝川三次元プロジェクト)

年間を通じて、乗馬レッスン、障害者乗馬、高齢者乗馬、引馬などを行うほか、川べりという地の利を活かして、カヤック教室などの水のプログラムをあわせて提供する。

現在、2001年から使用してきた仮設厩舎の老朽化が激しく、助成金を活用した建て替えの検討を進めている。ただ、その有効活用のためにはキャンプ(宿泊プログラム)の実施や困難な状況にある子供を対象とした居場所事業など、牧場の多様な活用が必要となる。この年度は、この課題に対応すべく、積極的に取り組みを進める。

主な事業	ポニーふれあい 引馬、レッスン、外乗、障害者乗馬、高齢者乗馬 ポニー教室 研修 出張乗馬教室・ポニーステイ カヤック教室・川遊び マウンテンバイク キャンプ(日帰り) 河川敷管理
------	---

1-7 新拠点整備に向けた取り組み

ハーモニセンターのプログラムを広く、多くの子供達に届けられるよう、中長期的視点を持って新拠点整備に向けた取り組みを進める。これには、キャンプが行える東京50km圏内施設や都市型の居場所機能を持った施設、既存の施設に新たな機能を加えたものなど、多様な形態が考えられる。

また、法人のいっそうの安定した経営のために、あわせて新たな施設運営受託の可能性を模索する。

いずれの場合も、ハーモニセンター単独での運営に限定することなく、各拠点の目的に見合う効果が発揮できるよう、それぞれの地域で特定分野の知見・経験をもつ既存団体等との連携を積極的に進める。

2. ポニーキャンプ[®]・ポニークラブ[®]・動物広場・牧場等の受託管理

地方自治体等の開設した施設を受託運営し、各自治体と連携しながら、引馬や小動物とのふれあい、ポニー教室などを提供する。合わせて、大学生・専門学校生の実習・研修の受け入れも行き、青年のキャリア教育への貢献を果たす。

2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)

所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m ²
飼育動物	ポニー(6頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など 動物クラブ 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(にんじんあげ、乗馬会など) 碑文谷ポニーキャンプ(現役生向け・卒業生向け)

年間を通じて、ポニー教室や動物クラブ、小動物とのふれあい、引馬などを提供するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかつたり、制限があったイベントについて運営方法を工夫しながら実施再開を図る。また、地域団体との関係強化や新たなつながりづくりを進め、より地域に密着した施設運営を進める。

老朽化にともなう施設の整備や障害児者の乗馬利用の環境整備などの積年の課題については、自治体と協議をしながら着実に進めたい。

2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)

所管課	葛飾区教育委員会地域教育課
面積	3,263 m ²
飼育動物	ポニー(13頭)

主な事業	ポニー乗馬(引馬) ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学校1年生から中学校3年生 団体:区外を含む中学生以下の団体 障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能だが中学生以上の新規受付は停止) イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」(年2回)「こどもまつり」「クリスマスホースショー」「マラソン大会」等 移動乗馬教室 「葛飾区子どもまつり」(4月)「かつしかスポーツフェスティバル」(10月) 介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回)
------	--

教育委員会の所管施設として、ポニーを用いて心身の発達・向上を図るプログラムを展開し、地域の方々からは「ポニー公園」という愛称で親しまれている。ポニー教室には毎年130人以上が登録し、1981年の開園から40年で通算会員数は4,700人を超えようとしている。

新型コロナウイルス感染症の影響で子供一人ひとりの活動時間が減少しており、体力やスキルの低下が懸念される。状況を見ながら運営形態を元に戻すとともに、「もっと来たい」と思ってもらえるより魅力的なプログラム開発に努める。また、不登校児の受け入れなど、付加価値を与える取り組みを自治体と協議しながら進めていきたい。

2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)

所管課	相模原市環境共生部公園課
面積	15,000 m ²
飼育動物	ポニー(15頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・シマリス・ミーアキャット ハイラックス・シカ・ウサギ・鳥類(クジャク・チャボ・オシドリ等)
主な事業	ふれあいコーナー 展示コーナー ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(市内施設及び団体対象) 搾乳体験 動物フェスティバル(年2回)

子供達にとって身近に動物に直接ふれ合うことのできる市民の憩いの場、家庭や学校とは違う居場所として運営している。新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな利用制限が続いているが、十分な感染症対策を取り、状況を見ながらより多くの方々に安心して楽しめる環境づくりを進める。

施設の老朽化については、自治体と協力しながら着実に修繕を進め、安全な施設運営を進めたい。

2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の3年目)

所管課	板橋区土木部みどりと公園課
面積	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ²
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい ヤギの屋根のぼり、橋渡り モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬 ポニーの馬車 こども動物クラブ ポニー教室、親子ポニー教室 出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・防災イベント・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画 軽食やお土産の販売、キッチンカーの誘致 公園清掃、樹木管理

本園は2020年12月にリニューアルオープンし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも多くの来場者を得ている。改修を経て全体として使いやすくなっているが、案内表示の改善や職員のいっそうのスキルアップを通じてより使いやすい、親しみやすい施設を目指す。

あわせて、近隣の団体や企業、学校などとの協働を図り、それぞれの特色を活かしたイベントを開催するなどし、子育て中のファミリーや不登校児、障害者、高齢者など、多様な対象への支援につながる取り組みを行う。こうした取り組みを通じて、区民ボランティアの確保など、より地域と連携した運営を進めたい。

2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m ²
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・シマリス・リスザル 鳥類(クジャク・ウコッケイ・オシドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間) 動物クラブ 各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ 中学生職業体験の受け入れ

地域密着型の動物広場として多くの利用者に愛されているが、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの事業をやむを得ず中止や縮小することになった。十分な感染症対策を取り、状況を見ながら事業を再開する。

開設から30年以上が経ち老朽化が進んでおり、今後、建て替えの検討が進むことが予想される。計画作成の際に意見を求められても十分に対応できるよう、着実な運営を進めながら、地域ニーズの把握にも努めたい。

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

全国乗馬倶楽部振興協会の助成を受け、相模原市・南魚沼市・茅野市を中心に、巡回ポニースクールを実施予定。いくつかの対象地域では参加者の協力を得て調査を行い、ポニーが人の心身の健康・成長にどのような影響を与えるかエビデンスを得ることを計画しており、今後の教育、福祉、医療現場でのポニー乗馬の普及につなげたいと考えている。

4. 川べり環境の整備及び活用

小貝川ポニー牧場の脇を流れる小貝川の河川敷を引馬や外乗、カヤック教室、川遊びの場として、また馬の放牧場として活用する。この年度は、障害児・者や高齢者も気軽に楽しむことのできるプログラムの開発に努める。

川べり環境の整備については、牧場開設当初より藤代まちづくり協議会と共同してフラワーカナル(河川敷の約1.1kmにわたる花壇)の整備や草刈りを行ってきた。しかし、藤代まちづくり協議会の解散が決まっており、地域と協力して今後の整備体制を見いだす必要がある。

主な事業	引馬・外乗 カヤック教室・水遊び ゴミ拾い・草刈り フラワーカナル種蒔き
------	---

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

これまで長年にわたって「モンゴル大草原乗馬交流」「日独青少年相互交流計画」といった国際交流事業を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響は払拭できず、この年度も直接交流は休止状態が続くこととなる。

しかし、交流が途切れぬよう、過去参加者を中心にオンラインを活用したイベントを継続実施する。あわせて、直接交流の再開を見据えて、モンゴル、ドイツに限らず、さまざまな国際交流プログラム実施の可能性を探り、調査を進める。

6. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

全国乗馬倶楽部振興協会、JRA日本中央競馬会、ゆるやかネットワーク、その他のグループが乗馬の効用、馬の活用状況に関連して実施する研究集会、調査、交流会などに積極的に参加・協力し、ハーモニーセンターが蓄積してきたノウハウ、成果等を積極的に発信すると共に、参加職員の資格取得、研修、情報収集にも努める。また、これらのネットワーク、そしてカウンセラーOB/OGらのネットワークを活かし、在来馬の保存・活用に関連するプログラムの展開も進めたい。

また、ハーモニーセンターの活動への理解を得て、広げていくためには、活動の効果、意義を測定、言語化し、伝えていくことが不可欠である。助成金の活用、大学等の研究機関やさまざまな課題に直面する子供達の支援を行う団体等との協働をしながら、調査研究に積極的に取り組みたい。

7. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

キャンプをはじめとするハーモニーセンターの活動を広く知ってもらうために、機関誌、WEB サイト、ブログ、SNS 等を活用して、情報発信を行う。

あわせて、運営基盤の強化につながる広報のあり方を検討し、積極的に変革を進めたい。

7-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」

会員、関係者、公的機関を対象に、月刊で 2,000 部を発行。

より興味を持ってもらえるよう、各現場でのエピソードを含むハーモニーセンターのさまざまな情報を発信すると共に、有識者からの寄稿も積極的に進める。

7-2 WEB サイト・SNS の運用

キャンプなどの最新の情報を伝えるとともに、定款や決算など開示情報を掲載する場としてWEBサイト (<https://harmonycenter.or.jp/>) を運用。あわせて、より手軽に情報を発信し、情報交流を図るツールとして、ブログ、SNS (Facebook/Instagram) を運用する。

SNSについては常に新しいツールが提供されているため、対象や提供する情報により合致する新しいものも積極的に活用する。

7-3 パンフレット・チラシの活用

各事業所やイベント会場など、紙媒体が有効な場面は依然として多くある。必要に応じて内容をブラッシュアップし、有効活用を進める。

8. 各種セミナー等

長年の活動を経て、キャンプ参加者やカウンセラーが子育てをするようになっていたり、仕事やボランティア活動等でさまざまな社会課題に対応するようになってきている。こうした人達が再びハーモニーセンターの活動に接する機会となるようなセミナー、イベント等を実施する。

あわせて、キャンプやポニー教室に参加する子供達がより深く馬や動物に関わる仕事について学べるプログラムや、活動の質を高めることに資する講演会などをオンライン、対面を交えて機動的に実施する。

9. 法人運営にかかる業務

9-1 職員等の研修

よりよい事業展開が行えるよう、担当業務、経験年数等に応じたさまざまな研修を年間を通じて実施する。この年度は、新たに法人独自の乗馬指導技術検定制度の運用を開始し、職員が体系的なスキルアップできることを目指す。

また、国外を含めた外部のセミナー、研究大会等に積極的に職員を派遣するとともに、業務に関連する資格等の取得を推奨する。

9-2 会議等の実施

法人運営に必要な諸会議を適宜実施する。

- (1)評議員会 2022年6月
- (2)理事会 2022年5月・2023年3月(必要に応じて臨時理事会を実施)
- (3)運営会議 年15回程度
- (4)施設長会議 年12回程度

9-3 運営体制強化に向けた取り組み

将来にわたって良質な体験を提供し続けるだけでなく、さまざまな社会課題に対応した事業が展開できるよう、ファンドレイズや新たな施設運営受託に向けた調査など、中長期的視点に立った運営体制強化の取り組みを行う。

新たな取り組みの検討にあたっては、役員、職員、外部識者なども交えて適宜プロジェクトチームを組織し、より実効性を高める。

9-4 他団体との連携等

関連団体への役員・委員・指導者等の派遣や、運営協力を積極的に行い、馬の利活用や青少年教育の向上に貢献する。

役員等派遣	公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会・NPO法人自然体験活動推進協議会 NPO法人日本Gボール協会・一般財団法人日本ユースホステル協会 一般財団法人陽だまりハーモニー・ゆるやかネットワーク このほかに、依頼を受けて馬の調教や乗馬指導に関する指導者を派遣
運営協力	「馬のいる領域」研究集会・公益社団法人日本キャンプ協会 大都市圏動物園事務主管者会議・NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 河川流域交流会・馬を用いたセラピー療育研究プロジェクト 一般財団法人日本ユースホステル協会(馬の楽校)

9-5 日常法人事務

円滑な法人運営のため、以下の事務を滞りなく行う。アウトソーシングや新たなシステムの導入も積極的に進め、各事業所の負担を低減するとともに、効率的な運営を目指す。

- (1)事業執行管理
- (2)経営管理
- (3)人事労務管理・職員研修
- (4)会員管理
- (5)寄付金・助成金事務
- (6)渉外事務
- (7)庶務